

にしあいつ



2013

(平成25年)



みんなが主役、笑顔はじける 西会津小運動会

P2～4

-特集-

地域・町おこしに燃える

～元気で活力ある地域づくり～

P5～7

-特集-

再点検「ごみ」の出し方

連携、集落活性化を求め

～平成25年度 自治区長会議～

P8

—特集— 地域・町おこしに燃える 元気で活力ある地域づくり

町では、地域の活性化に向けた事業に自主的に取り組む団体、町民の皆さんを応援することを目的に、活力ある地域づくり支援事業を平成23年度に開始し、今年度3年目を迎えた。今月は、この支援制度を使って、地域・町おこしに積極的に取り組む3団体の代表の熱い思いを伺った。

『奥川を何とかしたい、できることから実行』

昨 年は、登山道の草刈り作業をはじめ、5月3日に初めて登山イベントを開催し、町外からも多くの参加者があった。

組織の名称を「隊」とした。隊の目標は、奥川にどっしりとそびえる高陽山を生かした地域振興で、登山やサポートなどで、かわかってもらったすべての人たちが活動に参加できるように組織の名称を「隊」とした。

「高陽山へ登ろうよ隊」は、平成23年の夏、登山道の整備作業後に、今後も発展的に保全活動を継続すべきとの考えから結成され、ふもとの中ノ沢自治区を拠点に活動している。

登山口の中ノ沢から頂上までは、およそ2時間30分で、山頂からは残雪が輝く飯豊連峰の素晴らしい眺望が堪能できる山だ。

高陽山は標高1127m。ブナの原生林が多く植生し、残雪期のブナの芽吹くころが最も魅力的といわれ福島県の百名山に選ばれている。



高陽山へ登ろうよ隊 代表
かたおか もとじ
片岡 元次さん [塩]

目 標に向かい、地域での合意を大事にしながらいずれも活動も継続したいという、高陽山へ登ろうよ隊では、今

また昨年、隊では、登山者への高陽山登山案内板を製作し、中ノ沢集落入口に設置した。これは地元にとっても高陽山への関心が高まり活力の増す素晴らしい案内板になった。

市部の人のニーズ把握を目的に、片岡さんは、山梨県で行われた開墾ツアーに参加したことがあり、その経験から、都市部の人たちは、田舎の私たちにとって日常の、ありのままの自然・生活の体験を楽しみ、不思議と受け込んで、深い交流（対流）が生まれ、ツイッターなどで情報が自由に発信されて広がっていくという。このような体験型交流での地域活性化に期待を膨らみます。

片岡さんは「都市部と農村の交流が期待されている。私たちにはたくさんさんの宝物がある。ここにしかないオンリーワンの山がある。遠来者も多く望める」と話す。

「旧奥川中の校歌でも『高陽山』が歌われてきたが、学校が無くなり、忘れられてしまうようではいけない。隊として、できることから実行し、前に進んでいきたい。奥川全体を大自然公園にするという大きな夢に向かって」と片岡さんは意気込む。

INTERVIEW 1



▲奥川を見守るかのようにそびえる高陽山[真ヶ沢から]

情熱 挑戦。使命感



西会津町商工会青年部長
NPO法人 超機密プロジェクト理事長

さいとう まさのぶ
齋藤 雅信さん [上野尻]

INTERVIEW 2

『風評と戦い、西会津の魅力为全国にアピール』

超

機密プロジェクトとは、西会津町商工会青年部が東日本大震災、福島第一原発事故からの福島復興を目指し、企画したもので、会津の赤べこ大山祇神社がモチーフのローカルヒーロー『丞神デナー』による風評被害の払拭、地域の子どもの育成を図るためのプロジェクトである。

町商工会青年部では、これまで西会津味噌ラーメンの普及活動のほか、各種イベントの開催など、積極的に地域振興活動を展開してきた。震災以降、大山まつりなど、町への観光客減少により地域に疲弊感が漂い、部員から、これまでの活動とは一線を画す、復興に結び付く事業を行うべきといった声が上がりがり企画されたのが、このプロジェクトだ。

昨年、青年部の中に地域活性化を専門に担う「超機密プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、検討を重ね、今年1月に、青年部員21人が構成メンバーとなるNPO法人・超機密プロジェクトを設立し、

ローカルヒーロー『丞神デナー』が誕生した。

丞

神は、正しい道に導くとされる神の意味を持ち、「デナー」は額を表す会津弁「でな」に由来している。赤べこの形の「ベナー」が頭に乘ると誰でも丞神デナーに変身することができ、地域を愛する町民誰もが復興の力になれるという。

齋藤さんは「被災3県の苦しみ忘れられることなく、自分たちの手で未来を切り開くという熱い思いから、デナーの後頭部には3本の傷がある」と話す。

ベルトには、大山祇神社の社紋「左三つ巴」の模様が輝く。

N PO法人・超機密プロジェクトは、丞神デナーとともに、特撮映像番組を制作し、町ケーブルテレビをはじめ、さまざまなメディアで放映して、地域の観光資源や特産品などを町外に広くアピールし、町の産業振興と、町民の郷土愛や子どもたちの情操をはぐくむことを目標にしている。



▶大山祇神社で風評との戦いを誓い合う齋藤さん(左)と丞神デナー(右)

今

後は、特撮番組を制作し、まずは今夏の第1話の放映を予定している。

齋藤さんは「小さな自分の力でも本気になれば何かができるという真実、未来は自分たちの力で切り開くという揺るぎない思い、そして、どんな困難にも立ち向かう強い覚悟と勇気を、皆さんに感じ取ってもらえることができれば」と、地域に活力を生み出したいという気概を述べる。また、「町づくりは、町民一人一人が主役になって行っていくもの、私たちが一緒に町づくりをしていきましょう。次に丞神デナーに変身するのは、あなたかもしれないのですから」と呼び掛ける。

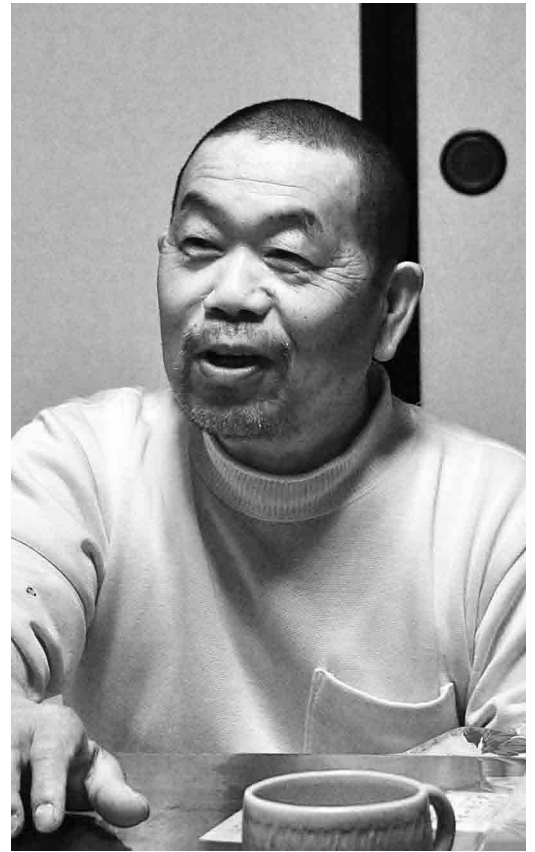
若者のアイデア 『奥ノ院』復活により にぎわいを取り戻したい

中 野区むらおこし実行委員会は、中野・大久保自治区で構成する中野財産区が母体となり、平成22年6月に組織された。

年々進む大山祇神社の参拝客減少に歯止めをかけ、神社を中心とした地域が町の観光の目玉となるよう、地域を盛り上げることを活動の目標にしている。

かつては講中など団体の参拝客でにぎわったが、団体客の減少から、家族単位やグループといった少人数で楽しめる、また来たくなくなるような観光地づくりが課題となっている。

「今では残念ながら臨時列車が来なくなってしまったが、にぎわっていた当時は、野沢駅に新潟方面などから臨時列車が10本も入り、駅から大久保まで会津バスによるピストン輸送が行われ、バスが大久保に到着すると火花が上がって、にぎやかだった」と小瀧さんは振り返る。



中野区むらおこし実行委員会 委員長
大久保自治区長

小瀧 達男さん [大久保]

INTERVIEW 3

実 行委員会では、これまで、5月下旬の心と身体健康ウォークin大山や、10月の大山祇神社・秋の例祭紅葉ウォーキングの開催のほか、神社本社までの参道への木製ベンチ設置、おとしの会津耶麻地方植樹祭で植えられた桜、約50本の苗木の保護、さらに、旧正月の二年参りに合わせた雪灯籠設置や歳の神の開催などを行ってきた。

地元の若い人たちの意識の高まりとともに、小瀧さんは、5月と10月のウォーキングや旧正月のイベントなどのほかに年間を通じて誘客を図るための事業を実施していきたいと意気込む。

「若い人たちから提案のあった神社奥ノ院の復活や、花木植栽といった環境整備、また、遊休農地を使ったソバ栽培と生そば提供、さらに農業や林業の体験といったグリーンツーリズムを視野に活動を広げ、こうした取り組みによって廃業



▲新緑の大山路を歩く「心と身体健康ウォークin大山」

した旅館の再開につながれば」と小瀧さんは語る。

また、「例えば、冬には林道を使ってスノーモービル大会を開催できるのではないかと小瀧さんは、ほかにも取り組める振興策があることを強調する。

奥 ノ院は、本社から1kmほど先に位置する。岩場を登った山の中腹の洞穴中に祠があり、20年ほど前までは、参拝者が「おこもり」を行っていたという。実行委員会では、この奥ノ院までの参道の現地調査や整備を計画している。

野沢の山の神様として広く信仰を集める大山祇神社が、これからも「なじみやすい」も聞きなされる神様」として愛されるようにと、実行委員会では、さらに地域を盛り上げるための取り組みの模索を続けている。



特集

再点検「ごみ」の出し方 収集車から出火

昨

年11月、野沢町内で走行中のごみ収集車から煙が上がり火災が発生しました。

この火災は、ごみ収集車に積み込まれたごみが何らかの原因で発火したものとみられ、白昼、路上で消火作業が行われました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、この火災で収集車が廃車になってしまいました。

こうした事態が二度と起きないように、町民の皆さん一人一人に「ごみ」の出し方の再点検をお願いし、一層のリサイクルと、ごみの減量化を進めるため、今月号では、町のごみの現状や、出し方の注意点について、収集関係者への取材を交え掲載します。

町のごみの量と処理費用

平成24年度の町のごみ排出量は、燃えるごみが1627トン、燃えないごみが246トン、粗大ごみは48トンで、合計1921トン排出しました。これを前年度と比較すると67トン増加しています。

この1921トンを町民1人当たりで換算すると、年間およそ260kg排出していることになります。

一方、リサイクルする缶や瓶、ペットボトル、紙類の資源ごみは合計142トンで、前年度より逆に20トン減っています。

ごみは現在、喜多方管内で広域処理していますが、平成24年度は収集、焼却、埋め立てなどで約6千890万円もの処理費用がかかっています。



株式会社 野沢商事
はせがわ たかし
長谷川 貴司さん [松尾]

引火の恐れがあるものは特に注意 最後まで責任を持って、ごみを出す

野沢商事で町のごみ収集を担当し、7年目になりました。

昨年11月、燃えないごみの収集運搬中に、収集車の後方から煙が上がっていることに気付き、急いで広い道路に出て通報し、消防署の皆さんの消火作業によって火は消し止められました。この火災で収集車の塗装がはがれ、鉄板が変色するほどの熱が発生し、収集車は廃車になってしまいました。このような事態は、会社としても初めてのことでした。

燃えないごみを収集車に積み込む際は、私たち作業員も注意していますが、スプレー缶は穴を開け、容器に液が残っていないか確認するなど、引火の恐れのあるごみを出す場合は、特に注意をお願いします。

その1

また、これまで1台で収集できた区域が1台で集めきれない状況であり、燃えないごみの量は増えています。

これは、缶や瓶、プラスチックの資源ごみが分別されず、燃えないごみとして出されているためと見受けられます。

資源ごみとしてリサイクルすることによって、ごみ処理の費用が減ります。分別の仕方が分からない場合は、いつでも作業員に聞いてください。

分別は、容器をゆすいだり、洗ったり、ラベルをはがしたり面倒です。また誰もが目の前から、ごみが無くなればと思いがちですが、限りある資源を大切にすることが大切です。一人一人ルールを守り、最後まで責任を持ってごみを出すという心掛けが大事だと思います。

ルールを守って正しく分別 リサイクルを徹底し、ごみ減量化を

町からの委託を受け、奥川商会では町内のごみ収集を行っています。各家庭で、ごみの焼却ができなくなった影響なども考えられますが、町の人口減少とは反対に、ごみの量は増えています。

現在、収集したごみは、燃えるごみと燃えないごみは、それぞれ山都の焼却場、破碎処理施設に搬入し、また、資源ごみは、瓶類が喜多方市、缶類と紙類は会津若松市のリサイクル業者に運搬しています。

1日平均の運搬量は収集車2台分で、多いときには3台にもなります。

収集を行う立場から町民の皆さんへ、お願いですが、ごみ袋は口をしっかり結んで、特に、生ごみは、よく水を切るようにお願いします。

その2

また、缶や瓶、ペットボトルは、リサイクルしますので、容器の中を軽くゆすいで、キャップやラベルのあるものは取ってください。

また、資源ごみのプラスチックに関しては、トレイは洗って、さらに、ラベルなどに書かれている「プラ」の表示を確認し、燃えないごみが、プラスチック類に混ざらないよう注意してください。

各自治区のクリーン推進員の皆さんには、分別作業の支援や、収集場所の清掃などで協力いただき感謝しています。

一人一人がルールを守って正しく分別し、リサイクルを徹底することによって、ごみの量を、もつと減らすことができます。と思っています。



有限会社 奥川商会 代表取締役
たまき たかゆき
玉木 隆行さん [梨平]



町クリーン推進員

はた 秦 フミエさん [萱本]

INTERVIEW

収集場所で互いに注意
みんながルールを身に付ける

萱本のクリーン推進員は2名で、私は集落の中ほどにある収集場所を担当しています。

推進員になったばかりのころは、分別の仕方、ルールがよく分からず苦労しましたが、今は、すっかり身に付きました。

収集日は、燃えるごみが毎週火曜と金曜、燃えないごみと瓶類は第2水曜、缶・ペットボトル・紙類は第2金曜になっています。

私が担当する収集場所では、2人1組の輪番制で当番を決め、燃えないごみ・資源ごみの月2回の収集日には、朝6時から7時まで、私と当番の3人が、ごみ収集場所に立つことになっています。

おそらく当時、萱本では、ごみの出し方があまり良くなかったので、話し合い

で、このように当番が立つようになったのだと思います。

この当番制によって、みんなが分別の仕方をきちんと覚え、今では、互いに注意し合い、決められた時間にルールを守って、ごみが出されるようになりました。冬の雪の日などは大変ですが、皆さんの協力のおかげで分別もすっかりできています。

これは、みんなの合意が必要ですが、自分が出すごみに責任を持つという意味では、ごみ袋に名前を書くというののも一つの方法ではないかと思っています。クリーン推進員になり4年目。今後もおごみが落ちていない、きれいな萱本になるよう活動していきたいと思っています。

その 3

町民の
皆さんへ



▲スプレー缶などには、必ず穴を開ける

昨年、発生した収集車の火災は、町民一人一人が注意することで防げました。今後、同じような事故が起きた場合、ごみ収集ができなくなることも考えられます。

このような事故が二度と起きないように、次の点に注意し、ごみを出すようお願いします。



再点検

スプレー缶、卓上コンロのカートリッジは、必ず穴を開け、中のガスをきちんと抜いてから出してください。

再点検

ライター、乾電池は、町役場、新郷連絡所、奥川支所、群岡診療所のいずれかに持ち込んでください。

再点検

石油ストーブなどを出す場合は、必ず、燃料をきれいに抜き取ってから出してください。

再点検

燃えるごみを出す場合は、生ごみの水分をよく切って出してください。

町では、ごみの分別、出し方の説明会をごみ処理場の環境センター山都工場と連携して行っています。希望される場合は町民税務課までご連絡ください。

分別方法などが分からない場合は問い合わせください。

町民税務課 ☎45-2215



出戸自治区長
さんべい てつえ
三瓶 鐵江さん

INTERVIEW 1

交流で地域おこし 楽しく暮らせる集落づくり

私は早くに父を亡くし、昭和38年、22歳で初めて自治区長を経験し、本年4月からは4回目の区長を務めることになりました。出戸自治区は、現在21世帯。非常に難しいですが、後継者の町外転出、高齢者独居世帯の増加、集落活動の停滞といった現状に歯止めをかけたいと思っています。こうした状況を打開するため、みんなで話し合い、平成12年、農地の維持管理や景観づくり、サル対策などを目的に、中山間地域等直接支払制度の取り組みを非農家と共に始めました。また、平成20年には、集落の文化の見直しによる特産品開発、都市との交流による集落活性化

を目的に、出戸集落活性化推進協議会を設立し、福島大学の学生との交流をはじめ、同大学の協力を得て出戸村史の発刊などを行ってきました。

今後は、約500年前に造られた町指定重要文化財の岩屋虚空蔵菩薩を保護し、また祭礼などの伝統的行事を後世に残していくとともに、参拝客との交流を深め、地域おこしにつなげていきたいと考えています。

出戸の住民は、まだまだ元気です。互いに助け合い、融和を図り、親睦を深めて楽しく暮らせる集落づくりを進めていきたいと思っています。

連携、集落活性化を求め

平成25年度
自治区長会議



▲重点事業説明後の質疑の模様

今年度の自治区長会議が4月23日、公民館で開かれ、本年4月から新たに自治区長になった35名代表の岩橋義平さん(中町)に伊藤町長から委嘱状が手渡されました。会議では、まず伊藤町長が最近の町政の概要を報告するとともに、自治区長の皆さんに町との一層の連携や、集落活性化への協力を求めました。続いて町から、今年度の予算や財政状況、重点事業・新規事業の説明を行いました。今月号では、4月から新たに自治区長を務める2人にインタビューしました。

協力し合い伝統行事を継承 そして、元気で明るい町内に

退職後、東京から西会津に戻り3年。自治区役員会で依頼を受けて、4月から初めて自治区長になりました。

区長になり、2カ月がたちましたが、1町内は区域が広いので、やはり、役場からの通知書類を仕分け、組長さんを通じて各家庭に届けることが大変な作業です。天気が良くないときは、書類が雨でぬれないよう気を遣います。

本町の1町内および2町内、3町内では、お能化様や、盆踊りなどを、おそらく私の生まれる前から開催しており、このほ

か、諏方神社、荒田稲荷神社、古四王神社の例祭や、おはらいの儀などが毎年行われています。こうした伝統的な行事・事業を2町内、3町内をはじめ、ほかの団体や地域の皆さんと協力し合い継承していきたいと思っています。

また、自治区内の美化清掃や、流雪溝による除排雪活動などを通して住みよい環境づくりとともに、住民の皆さんの絆を深めていきたいと思っています。さらに防災、防犯を呼び掛け、元気で明るい1町内にしていきたいと考えています。



本町1町内自治区長
わたなべ としひろ
渡辺 利広さん

INTERVIEW 2



故新田正夫さんに感謝状 在京西会津会

首都圏在住の町出身者で組織する在京西会津会第31回総会が、5月18日に東京都内で開かれました。

総会のはじめには、4月24日に逝去した名誉町民、同会初代会長の新田正夫さんに黙とうがささげられ、伊藤町長から新田さんの親族に感謝状が贈られました。(写真：左側)

総会では、町からの出席者が情勢を報告した後、大阪商業大学の田崎公司准教授が「西会津の歴史アラカルト～八重の桜と、のぼうの城～」を演題に講演しました。

総会後の懇親会では、参加した地域づくり団体によるPRや物販も行われ、約130人の出席者は、振る舞われた郷土料理を味わいながら、活発に意見交換を行いました。

町づくりのためにと善意

5月7日に、あいづしんくみ年金友の会連合会[渡部祐三会長]から、5月15日には、前喜多方警察署西会津交番所長の伊藤正一さんから町に寄付が寄せられました。

あいづしんくみ年金友の会連合会では、このたび、会津商工信用組合の店舗所在市町村に寄付を行うこととし、同連合会の川口康男西会津支部長と、同信用組合の坂内吉悦西会津支店長が寄付のため町役場を訪れました。

前西会津交番所長の伊藤正一さんは「退職前の3年間、最後に勤務した西会津町の皆さんに恩返しをしたい。少しでもお役に立てば」と伊藤町長に寄付金を手渡しました。



伊藤町長に寄付金を手渡す川口康男さん(中央)と坂内吉悦さん(左)▼

▲前西会津交番所長の伊藤正一さん(喜多方市)



雪の中で春季消防検閲

春季消防検閲が4月21日、消防団員301名、女性消防隊員21名、消防車両29台の参加のもと行われました。

この日は早朝から雪が降り続く中、消防団員らは閲団式に臨み、野沢原町で勇壮に分列行進を行いました。

続いて屋内ゲートボール場に会場を移し検閲式が行われ、江川新壽消防団長が「多発する災害や火災から町民を守るため、全身全霊で消防活動に励むよう切望します」と、また、伊藤町長は「一朝有事の際に備え万全を期し、安全・安心な町づくりに尽力いただきたい」とあいさつしました。検閲式終了後には大槻橋上流で放水訓練が行われ、一斉放水が披露されました。

風評払拭のため安全性を説明

会津いいで農業協同組合および西会津町、喜多方市、北塩原村、県会津農林事務所などは合同で、今年の本格的な青果物出荷を前に、産地と市場の関係者が一堂に会し、青果物の安全性などについて共通理解を深めることを目的に、4月18日、「JA会津いいで青果物販売推進会議」を東京都の大田市場で開催しました。

会議では、産地側から今年度のアスパラガス、キュウリ、トマトなど主要品目の出荷・販売計画と、放射性物質検査による出荷体制などについて説明が行われ、農産物の安全性をアピールしました。市場側からは、東京、神奈川、千葉の青果物取扱会社11社が出席しました。



食がっなぐ、健やかな心と体

6月は
食育月間
です

食のサポーター「食改さん」の活動

食生活改善推進員とは？

町では、町民の皆さんの健康増進のため栄養知識の向上と食生活改善の推進を目的に、昭和57年から食生活改善推進員を設置しています。

推進員の皆さんは、地域で「食改さん」と呼ばれ活動しています。

今年度は、49人が推進員に委嘱され、赤ちゃんから高齢者までの食育、食生活改善のため、町民の皆さんの食のサポーターとして活躍しています。

食改さんになるには？

町が開催する「食生活教室」を20時間以上受講すると食生活改善推進員になる資格を得ることができます。

食生活教室では、健康料理の調理実習はもとより、医師や保健師による生活習慣病予防の講話、また、ウォーキング体験など、健康づくりのための生活習慣を学習します。

今年度は10月に受講者を募集し、11月から教室をスタートしますので、興味や関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

健康支援係 ☎45-4532



▶伊藤町長から委嘱状を受け取る安部美江子さん（1町内）



▶食生活改善推進員として活動する山形洋子さん（左・徳沢）、五十嵐ミサ子さん（中央・滝坂）、石川幸子さん（右・下野尻）

食改さんにインタビュー



●食生活改善推進員になったきっかけは？

〔山形洋子さん〕家族の健康を考えた食事を学びたいという思いから平成4年に教室を受講しました。

〔五十嵐ミサ子さん〕会社勤めのころは食について意識していませんでしたが、退職したとき、ちょうど誘われたのがきっかけです。

〔石川幸子さん〕自治区の先輩が食改として活動する姿を見て興味を持ち受講しました。

●推進員になって良かったことは？

〔山形さん〕計量カップ・スプーンの使い方が身に付きました。特に塩分には注意するようになり、また、計量して料理するところを娘が小さいころから見ていたので自然に食育にもなっていたようです。

〔五十嵐さん〕一番は、塩分を減らすことに慣れたことです。

食改の先輩も言っていました。主人の舌を慣れさせるのは大変でした。今では、お互いに注意し合っています。

楽しく食育/親子でおやつ作り

カルシウムたっぷり

『ごまじゃぼどーナツ』

【材料】

ホットケーキミックス	200g
卵	1個
砂糖	80g
牛乳	65cc
バター	30g
煎りごま(白)	大さじ3
しらす	20g
薄力粉(打ち粉用)	適量
揚げ油	適量

【作り方】

- ①ボールに卵を割り入れ、砂糖、牛乳、溶かしたバターを加えてよく混ぜます。煎りごまと、しらすを加え、ホットケーキミックスを入れ、練らない程度にさっくり混ぜ合わせます。
- ②ひとまとめにし、薄く薄力粉をふったまな板に載せ、麺棒で1cmぐらいの厚さにのばし、ドーナツ型で抜きます。(型が無い場合は棒状にして輪にします)
- ③揚げ油を熱し、ゆっくりと揚げます。



〔石川さん〕血圧が高めでしたが、塩分に気を付けて料理するようになり低く安定してきました。

●町民の皆さんに伝えたいことは？

〔3人とも〕自分と家族の健康を守るためには普段の食事が大事です。活動を通して、ほかの地区の友達がたくさんできます。一緒に活動しましょう。



平成25年度の公民館の各教室・講座が4月から順次開講しました。中でも今年度初めて開講した「ヨガ教室」には40人を超える申し込みがあり、大人気となっています。講師は、猪苗代町在住の笠間知子さんで、西会津町のほか猪苗代町でも指導にあたっています。

平成25年度 教室・講座開講 ヨガ教室が大人気！

ヨガ教室開講初日の5月8日には、会場の公民館大ホールが参加者でいっぱいになり、参加者は心と体をリフレッシュしました。ヨガ教室は12月まで月2回開催します。なお、今年度は、参加者多数のため、参加者の募集を締め切らせていただきました。

▲多くの受講者がヨガ教室で心と体をリフレッシュ



出前講座

町の史跡などを見学

5月1日、奥川飯沢老人クラブ（宮沢秀夫会長）からの依頼で出前講座を開催しました。

講座は、意外に知られていない地元の歴史を学びたいとの希望から、町の史跡と文化財をめぐる内容で実施しました。

当日は、会員20人が参加し、出ヶ原の国指定重要文化財・円満寺観音堂や、野沢・本町の一里塚など10カ所を町生涯学習指導員の案内で見学しました。



▲円満寺観音堂の前で記念撮影

春の野草展

かれんな草花が来場者を魅了



▲会津若松、喜多方から野草愛好者が来場

5月11、12日の両日、公民館大ホールで「春の野草展」が開催されました（生涯学習発表会実行委員会主催、町野草会の共催）。

会場にはシュンランや、ヤマシャクヤクなど、昨年より多い149点の野草が展示されました。

2日間で町内外から150人を超える野草愛好者が訪れ、かれんな草花が来場者を魅了していました。



町民バトンタッチ

いのうえ しん
井上 慎さん [新町]

さくま よしひと
佐久間 嘉仁さん (5月号から) メッセージ
いつもありがとう。仕事頑張ってください!!

あなたの趣味は?
音楽鑑賞 [邦楽]

熱中していることは?
ドライブ、今度、首都高速
を走ってみたいです

最近感動したことは?
長嶋さん・松井さん国民栄誉賞受賞

自分を一言で表現するとしたら?
マイペース

特技は?
野球

あなたのモットーは?
悔やんでも過去は変わらない、
今現在に最善を尽くすこと!

これからやってみたいことは?
親孝行

次の方を紹介してください
T・Aさん (小綱木)

とっておきの物は?
『中学野球部の引退試合時の写真』
「このメンバーで仲間たちと
いろいろなることを学びました」



町民 ギャラリー

聞いて! わたしの夢

まんさく俳句会

[5月例会]

歌うたふ気概ふつつ五月祭
廃校のいま満開に八重桜
平年のあき家に五月灯がともる
じえじえと言ふ方言知るや聖五月
武者人形目鼻きりりと勇み立ち
馬鈴薯植ゑて寒暖の差の大きこと
鎌の柄の楔打ちこみさあ五月
退院の決まりし朝の五月風

小野木麗子 (真ヶ沢)
斎藤 京子 (上野尻)
佐藤 ノシ (極 入)
長谷川清子 (下小屋)
矢部 モト (九町内)
山本 ノシ (九町内)
斎藤五早男 (上野尻)
和久井正己 (十町内)

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分の想い描いている夢や目標などを話していただいています。

今日は、2年・生徒会会計の新澤和弥さんです。

わたしの夢——

「僕が将来なりたいたいと思っている職業はエンジニアです。エンジニアは、機械の設計をしたり、機械を作ったりする仕事です。なぜエンジニアかというと、機械が好きだからです。

僕は、その機械がどんな仕組みになっているのかとても興味があり、つい、いじってしまい、身近な電話機などを分解したりします。もっと機械のことを知りたいのでエンジニアになりたいと思いました」



努力していること——

「今、努力していることは勉強です。高校、大学と進学するため、しっかり勉強し、苦手な国語も克服したいと思っています」

最後に未来の自分に一言——

「仕事で大変なことがあったり、つらくなったりするときもあると思いますが、しっかりと前向きに頑張ってください」

まちの人口 ～5月1日現在～ (前月比)

人口	7,364人	(-18人)
男	3,548人	(-6人)
女	3,816人	(-12人)
世帯	2,791世帯	(+2世帯)

戸籍の窓口 ～4月受付分～ 〈敬称略〉

お誕生おめでとう

池田 晃 希くん	昌志・陽子	7町内
岩原 岳くん	仁・祐美	7町内
齋藤 大和くん	豊・美幸	堀越

ご結婚おめでとう

石川 和宏	2町内
平田 真子	喜多方市
平野 健太	3町内
大沼 あゆみ	1町内

お悔やみ申し上げます

齋藤 春恵 (79)	千葉義久	母	3町内
武藤 傳英 (89)	古張敏一	父	5町内
江川 吉元 (81)	義仲	父	西原
宇多川 健治 (79)	泰充	父	松尾
長谷川 文子 (85)	福和	祖母	松尾
渡部 富三 (82)	勝次	父	上小島
二瓶 ツヨ子 (85)	忠雄	母	縄沢
長谷川 トヨ (90)	勝美	母	縄沢
田崎 ヨシノ (95)	輝一	母	長桜
渡部 スミノ (96)	和夫	母	黒沢
石本 サダ (83)	武彦	妻	上野尻
仲川 徳右衛門 (95)	徳喜	父	平明
海沼 清次 (97)	賢勇	父	樟山
伊藤 信市 (96)	重人	父	塩
星 節雄 (86)	健	父	新町
井上 クニ (92)	國男	母	道目
矢部 キン (90)	忠夫	母	中ノ沢

こちら西会津交番です

4月の人事異動で新たに着任された西会津交番の皆さんを紹介します。

鈴木 敬規 所長
昭和55年生まれ
福島市出身
担当地区：野沢



初めて交番所長という重責を担うことになり、プレッシャーを感じていますが、座右の銘「一所懸命」を胸に、町の安全・安心のため頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



長窪 将也 巡查
平成4年生まれ
小野町出身
担当地区：野沢

「今日も平和だった」と、日々、町民の皆さんが思えるような事件・事故の無い町づくりを目指していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

橋本 龍 巡查
昭和63年生まれ
郡山市出身
担当地区：尾野本



事件・事故を1件でも多く減らし、地域の皆さんが安心して暮らせる町づくりに貢献できるよう頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

町議会臨時会 報告

町議会臨時会が5月13日に開かれ、次の議案4件がいずれも原案のとおり可決されました。

可決された議案

- 町税特別措置条例一部改正の専決処分の承認
- 平成24年度町一般会計補正予算(第10次)専決処分の承認
- 町新型インフルエンザ等対策本部条例の制定
- 平成25年度町一般会計補正予算(第1次)

以下は広告です。内容については、広告主へお問い合わせください。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆ 大きさ 1 枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆ 掲載料 1 枠当たり5,000円/月

【問い合わせ先】

企画情報課・広報広聴係 ☎45-4536

仲間の応援背に競い合う

5月14日、耶麻管内中学校体育大会陸上競技大会が、さゆり公園で開かれ、管内の10校から約500名が出場しました。西会津中学校では、この大会に向け4月から特設陸上部を設置し、練習を積み重ねてきました。選手の皆さんは、日差しに新緑が輝く絶好のコンディションの下、仲間の力強い応援を背に日ごろの成果を競い合いました。

こゆりちゃん トピックス



今月の表紙

西会津小学校大運動会が5月25日に同校で開かれ、青空の下、元気よく思い切り駆ける子どもたちの姿に歓声が響きました。児童たちは、この日のために「みんなが主役の運動会・さあ！笑顔の花を咲かせよう！」をスローガンに協力し合い練習してきました。赤組も白組も、保護者や住民から声援を受けながら最後まであきらめず懸命に戦いました。



広報にしあいづ
2013 (平成25年)

6月号

発行：西会津町 編集：企画情報課
☎0241-45-2211 (代表)
info@town.nishiaizu.fukushima.jp
http://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/



この広報紙は、環境に優しい大豆インキを使用しています。